

第1号議案 令和2年度事業報告、貸借対照表、正味財産増減計算書
財産目録の承認について

令和2年度 事業報告

令和2年度は、猛暑に加え度重なる集中豪雨と台風など自然災害が全国各地に甚大な被害をもたらしました。また、新型コロナウイルス感染症の拡大による生産や販売への影響や豚熱や高病原性鳥インフルエンザをはじめとする家畜疾病の発生などにより、農林水産業は大きな被害を受けました。

特に、30年9月、岐阜県に発生した豚熱（CSF）は、これまでに13県（68事例）で約24万頭が殺処分されるとともに、24都府県の野生イノシシにも確認されるなど、現在に至っても広域に病原体が拡散しています。

また、昨年11月に発生が確認された高病原性鳥インフルエンザは、本県を含め18県（52事例）で国内の飼養羽数の約3.1%に当たる約987万羽が殺処分されており、野生動物の感染に対する対策の強化と、農場における飼養衛生管理を徹底し、その防疫体制の更なる強化が必要となっています。

さて、畜産を巡る情勢は、パンデミックな様相を呈した新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、各国の経済活動が停滞し、インバウンド需要や外食需要の減退により牛枝肉価格は大幅に低下しましたが、経済活動の再開に伴い上昇してきました。子牛価格についても、新型コロナウイルス感染症の影響による枝肉価格の低下に伴い一時的な低下はあったものの、回復してきています。

また、学校の休校や緊急事態宣言以降の業務用需要の減少等により、生乳を保存の利く乳製品向けに仕向けたことから、バター・脱脂粉乳とともに消費量に対して生産量が大きく増加したため在庫量が増加するなど、酪農経営に与える影響が懸念されています。

豚肉の枝肉価格や鶏肉は、緊急事態宣言後の「巣ごもり需要」が旺盛となり、量販店での販売が好調なこと等から、価格は堅調に推移していますが、卵価は緊急事態宣言後、業務・加工用の需要が大幅に減少し低水準でありましたが、鳥インフルエンザの発生により殺処分羽数が増加したことから上昇傾向にあり、例年を上回って推移しています。

一方で、配合飼料の高止まりや素畜費、生産資材の高騰による生産費の増加で、畜産農家への影響が懸念されています。

このような状況の中で、県の畜産は農業産出額の36%を占める重要な品目であることから、当協会は県、市町村、農協等関係機関や団体の協力をいただきながら生産者の経営支援対策、価格安定対策、家畜衛生対策に積極的に取り組んでまいりました。

経営支援対策では、畜産農家の経営や飼養管理技術の改善等を図るため、畜産コンサルタント委託事業や畜産特別資金等推進事業など県振興局等関係機関と連携を図りながら集団的指導の強化に努めるとともに、畜産クラスター関連事業をはじめ肉用牛経営安定対策補完事業などに取り組み、経営規模の拡大や生産効率化・省力化による生産者の収益性の向上を努めてきました。

価格安定対策では、肉用子牛生産者補給金制度、肉用牛肥育経営安定交付金制度や肉豚経営安定交付金制度等を実施する中で、新型コロナウイルス感染症の影響でインバウンド需要や外食需要の減退による枝肉価格の大幅な低下があったものの、その後経済活動の再開により価格の上昇がみられましたが、国・県の新型コロナ対策が講じられる中、全畜種（肉専用種・交雑種・乳用種）で13,064頭に1,330,726千円の補てん金を交付し、肥育牛生産者の支援を行いました。肉用子牛については、一時的な価格の低下はあったものの補てん金の交付はありませんでした。

家畜衛生対策では、豚熱、口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザ等の海外悪性伝染病に対する予防・啓発活動に取り組むとともに、ワクチン接種等による家畜の損耗防止を推進し、畜産経営の安定を図ってきました。また、豚熱やアフリカ豚熱の侵入を防止するために養豚農場への野生動物侵入防護柵の整備を図りました。さらには、飼養衛生管理基準の遵守など関係機関や獣医師と連携し自衛防疫の推進を図り、特に、飼養管理の向上を目指す生産者に対しては、地域農場HACCP認証支援事業により、制度の普及並びに認証取得に向けた支援に取り組んでまいりました。

その他、大分県農林水産祭の一環行事としての第81回大分県畜産共進会は新型コロナウイルス感染症の影響により種畜の部は開催中止となりましたが、肉牛の部が開催されました。また毎年開催している畜産フェスタは台風により中止となりましたが、学校給食へ「おおいた和牛」、「米の恵み」、「おおいた冠地どり」「豊のしゃも」などを提供するなど県産畜産物の銘柄確立や消費拡大をはじめ、畜産に対する理解醸成に取り組んでまいりました。

また、当協会の運営は、低金利による資金運用益の減少や価格安定対策業務の法制化により事業執行の変更に伴う事務手数料等の減少で厳しい状況にありますが、新型コロナウイルス感染症対策などの新規事業に積極的に取り組み運営費を確保するとともに、経費の削減により効率的な運営を行い、公益法人としての目的を達成するために、役職員一丸となって取り組んでまいりました。

(経営支援課)

1. 畜産生産能力・生産体制強化対策事業（家畜能力等向上強化推進事業）

〔1 家畜能力等向上強化推進 (2)肉用牛 ②多様な種雄牛の活用促進対策 ア希少系統種雄牛産子肥育奨励金〕

広域後代検定における共同利用種雄牛及び希少系統の再構築を目的に造成、選抜された県有種雄牛等の枝肉成績の判明率向上、並びに多様な牛肉生産に対するニーズに即した県有種雄牛の利用促進のため、県内協力肥育経営体（24 経営体）に対して、肥育開始された肥育素牛（181 頭）1 頭当たり 20,000 円の奨励金を交付した。

区 分	予算額（円）	決算額（円）
国庫補助金	4,000,000	3,620,000

(内訳)

(単位：頭、円)

肥育素牛の父牛	計 画		実 績	
	頭数	金 額	頭数	金 額
安 森 照	117	2,340,000	113	2,260,000
光 星	2	40,000	2	40,000
睦 美 幸	66	1,320,000	54	1,080,000
隆 誉	5	100,000	4	80,000
白 帝 隆	1	20,000	1	20,000
文 照 福	3	60,000	3	60,000
茂 藤 竜	6	120,000	4	80,000
松 吹 雪	0	0	0	0
松 久 鶴	0	0	0	0
合 計	200	4,000,000	181	3,620,000

2. 肉用牛経営安定対策補完事業

肉用牛生産基盤の強化に向けて、肉用牛優良繁殖雌牛の導入や農家の高齢化等に対応するためのヘルパー活動の支援を行い、本県肉用牛の増頭を促進した。

区 分	予算額（円）	決算額（円）
農畜産業振興機構 補助金	30,020,000	22,386,043

(1) 肉用牛生産基盤強化対策事業

1) 中核的担い手育成増頭推進

県内の肉用牛経営が優良な繁殖雌牛を計画的に増頭した場合に、増頭実績に応じた奨励金として 98 頭に対して 9,280,000 円（1 頭当たり 80,000 円（26 頭）、育種価要件の高い牛には 100,000 円（72 頭））を交付した。育種価要件を満たす頭数が計画頭数を下回ったことから、交付実績は計画に達しなかった。

(単位：頭、円)

事業実施者		計 画		実 績	
		頭数	金 額	交付頭数	交付金額
大分県 農業協 同組合	中西部事業部 (由布)	3	300,000	2	200,000
	中西部事業部 (日田)	7	560,000	3	260,000
	南部事業部	6	480,000	5	480,000
	豊肥事業部 (豊後大野)	12	1,200,000	11	1,100,000
	豊肥事業部 (竹田)	41	4,100,000	36	3,400,000
	北部事業部	41	4,000,000	30	2,860,000
	小 計	110	10,640,000	87	8,300,000
玖珠九重農業協同組合		20	1,900,000	8	680,000
九重町飯田農業協同組合		2	160,000	0	0
下郷農業協同組合		5	480,000	3	300,000
合 計		137	13,180,000	98	9,280,000

2) 遺伝的多様性に配慮した改良基盤確保

地域において多様な系統群による改良基盤の強化を推進するため、生産者集団等が雌牛を購入し、肉用牛経営に対し一定期間貸し付ける場合の奨励金として2頭に対して180,000円(要件により1頭当たり90,000円)を交付した。要件とされている希少系統に属する個体の貸付頭数が計画頭数を下回ったことから、交付実績は計画に達しなかった。

(単位：頭、円)

事業実施者		計 画		実 績	
		頭数	金 額	交付頭数	交付金額
大分県農業協同組合豊肥事業部 (竹田)		16	960,000	2	180,000

3) 優良繁殖雌牛導入支援

繁殖雌牛飼養頭数の維持・拡大を図るため、導入計画に基づき、生産者集団等が雌牛を購入し、肉用牛経営に対し一定期間貸し付ける場合の奨励金として18頭に対して900,000円(育種価要件により1頭当たり50,000円)を交付した。育種価要件を満たす貸付頭数が計画頭数を下回ったことから、交付実績は計画に達しなかった。

(単位：頭、円)

事業実施者		計 画		実 績	
		頭数	金 額	交付頭数	交付金額
大分県 農業協 同組合	中西部事業部 (日田)	9	440,000	7	350,000
	豊肥事業部 (竹田)	16	640,000	11	550,000
	小 計	25	1,080,000	18	900,000
玖珠九重農業協同組合		8	400,000	0	0
九重町飯田農業協同組合		2	100,000	0	0
合 計		35	1,580,000	18	900,000

4) 肉用牛ヘルパー推進

農家の高齢化等に対応し、肉用牛生産の労働負担の軽減を図るため、利用組合が実施する肉用牛ヘルパー活動の組織化、ヘルパー要員確保、傷病時等の際のヘルパー利用に係る互助制度の推進等の活動を支援し、各肉用牛ヘルパー利用組合の利用者に対して利用料金の1/3(定休型)～1/2以内で補助金を交付した。

(単位：円)

事業実施者	計 画		実 績	
	事業費	金 額	事業費	交付金額
久住地域肉用牛ヘルパー組合	13,433,025	4,031,962	10,617,800	3,217,726
日田地域畜産ヘルパー組合	3,335,580	1,014,415	2,731,680	831,419
豊後大野市肉用牛ヘルパー推進協議会	4,716,720	1,833,669	4,137,118	1,602,404
庄内町肉用牛ヘルパー利用組合	1,502,510	633,155	1,210,790	529,045
湯布院町肉用牛ヘルパー利用組合	775,500	359,750	729,430	338,789
玖珠九重肉用牛ヘルパー組合	6,325,560	1,875,083	4,891,320	1,446,521
合 計	30,088,895	9,748,034	24,318,138	7,965,904

5) 肉用牛振興推進指導

中核的担い手育成増頭推進、遺伝的多様性に配慮した改良基盤確保、優良繁殖雌牛導入支援及び肉用牛ヘルパー推進の事業を円滑に実施するための関係機関との調整、増頭確認、肉用牛ヘルパーの実態調査及び推進指導を実施した。

3. 畜産経営災害総合対策緊急支援事業

令和2年7月豪雨及び令和3年の冬期の大雪により被災した生産者を支援する必要があることから、生産者の安定的な経営継続のための支援を行い、国産牛肉の安定供給を図った。

区 分	予算額 (円)	決算額 (円)
農畜産振興機構 補助金	2,755,000	3,923,327

(1) 経営継続支援対策

1) 牛舎、飼養管理の附帯施設・機械の補改修等

牛舎等の損壊等あるいは緊急的な家畜の避難に伴う牛舎、飼養管理のための附帯施設・機械の補改修等を緊急的に実施するのに要する経費について1/2の補助を行った。

(単位：戸、円)

事業実施者	計 画		実 績		
	戸数	金 額	交付戸数	交付金額	
大分県 農業協 同組合	中西部事業部 (日田)	1	342,720	1	342,720
	豊肥事業部 (竹田)	1	1,146,775	1	959,050
	北部事業部	0	0	1	1,357,320
	小 計	2	1,489,495	3	2,659,090
玖珠九重農業協同組合	4	808,707	4	808,275	
合 計	6	2,298,202	7	3,467,365	

2) 緊急避難等支援

牛舎の損壊等による緊急的な避難に伴う家畜の輸送及び飼料等の輸送、管理委託を緊急的に実施するのに要する経費について1/2の補助を行った。

(単位：戸、円)

事業実施者	計画		実績	
	戸数	金額	交付戸数	交付金額
大分県農業協同組合中西部事業部 (由布)	1	135,391	1	135,391

(2) 経営継続支援対策の推進

経営継続支援対策の事業を円滑に実施するために、関係機関との調整及び推進指導等を行った。

4. 畜産特別資金等推進指導事業

畜産特別資金等借入者の早期経営改善に向け、関係機関と一体となって総合的な支援、指導を実施した。

区分	予算額 (円)	決算額 (円)
中央畜産会 補助金	2,530,000	2,238,464

実施事項	人数 戸数	内 容
都道府県支援推進協議会の開催	2回 (延べ31名)	大分県大家畜・養豚特別支援協議会構成員を参集し前年度事業実施報告並びに本年度事業実施について協議した。また、支援協議会及び3融資機関の指導体制等について協議した。
融資機関への指導・助言	5機関	畜特資金の制度、資金融通後の融資機関の役割と借受者に対する支援指導について助言指導を行った。
経営改善計画作成・見直し計画作成指導	4戸	肉用牛経営1戸、酪農経営2戸、養豚経営1戸の経営改善見直し計画作成に関する支援・指導を行った。
経営改善計画達成指導	17戸	肉用牛経営10戸、酪農経営4戸、養豚経営1戸を対象に改善計画に対する達成状況、改善状況の把握並びに支援・指導を行った。また、肉用牛経営1戸、酪農経営1戸を対象に濃密指導を行った。
その他借入者への指導事項	35人	融資機関、関係機関等を対象に、畜産経営の家族継承・第三者継承について研修会を開催した。

5. 家畜防疫・衛生指導対策事業

家畜伝染病等の発生時に備えた防疫演習、防疫対策の取組啓発等を行うとともに、地域防疫体制の整備・定着を図った。また、農場HACCP認証に向けた構築指導、認証後のフォローアップを行うとともに農場HACCP認証取組促進の周知活動を行い、農場HACCP認証制度の構築、強化・維持、普及を図った。

区分	予算額 (円)	決算額 (円)
中央畜産会 補助金	5,360,000	5,168,803

実施事項	回数	人数	内容
1 地域自衛防疫推進事業 ①自衛防疫取組促進会議の開催	2回	16名	自衛防疫演習開催に関する検討並びに事業実施内容の検証をした。
②自衛防疫演習の開催	9回	598名	生産者、県、市町村、関係機関を対象に実地演習を1回、飼養衛生管理基準改正に係る講習並びに実地演習を8回開催した。
2 地域農場 HACCP 認証支援事業 ①農場 HACCP 普及推進会議の開催	1回	26名	生産者、県、関係機関を対象に農場 HACCP の概要・取組事例研修会を開催した。
②構築指導事業	22回	6農場	農場 HACCP 認証取得並びに認証制度維持に向け取り組む農場の支援を行った。 構築指導 3 農場、フォローアップ 3 農場

6. 畜産経営技術指導事業（地域畜産支援指導等体制強化）

地方競馬全国協会の補助により県内畜産経営の支援強化を行い、地域畜産の活性化や安全で安定的な畜産物の供給に向けて以下の事業を実施した。

区分	予算額（円）	決算額（円）
地方競馬全国協会 補助金	9,799,000	9,799,000

（1）畜産経営の支援体制の強化を図る事業

1）畜産経営改善のための推進指導事業

畜産経営 26 戸（肉用牛経営 20 戸、酪農経営 6 戸）を対象に経営面・技術面から経営改善指導、経営管理指導、生産技術指導を行い、畜産経営の改善・安定化を図った。

2）畜産ネットワーク・担い手支援推進事業

畜産に携わる男性・女性の畜産ネットワーク組織の会員が、中核的な存在として地域畜産を担っていくため、会員間の交流や会員自らのスキルアップのための活動支援（研修会 1 回）を行った。

3）畜産経営スキルアップ支援事業

新型コロナウイルス感染症の拡大のため、畜産経営者、後継者、新規就農者等を対象に、畜産経営技術向上のための研修会を 4 回開催予定していたが開催を見送った。

（養豚研修会 2 回、養鶏研修会 2 回）

4）新規就農者支援事業

本県肉用牛経営の新規参入促進を図るため、就農フェアの新規参入者の募集、肉用牛定休型ヘルパー業務の体験、県内新規就農希望者を対象とした県内先進農家での研修及び就農に向けた経営計画作成等の支援を実施した。

(2) 地域畜産の活性化、安全かつ安定的な食の提供に資するための事業

1) 食育・地産地消推進事業

生産者組織、畜産関係団体と連携し、県内の小学校を対象に食育活動を1回行った。また、県内7市町の学校給食に県産畜産物を提供し、畜産に対する理解醸成と安全・安心な県産畜産物の消費拡大に向けた推進を行った。

2) 地域畜産交流フェア

台風の影響により大分県農林水産祭は開催中止となったが、一般消費者を対象に畜産に関する理解醸成、県産畜産物の消費拡大（広報活動含む）を推進するために、生産者・県・関係機関と連携し取り組んだ。

3) 畜産共進会開催事業

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、大分県畜産共進会は、肉用牛の部、乳用牛の部は中止となり、肉牛の部（出品頭数50頭）のみの開催となった。

4) 種畜精液保管譲渡推進事業

豊後牛の生産基盤の確立及び豊後牛の銘柄確立のため、県有種雄牛の精液保管譲渡の支援を行った。

5) 多様な種雄牛活用推進事業

県内生産された肥育素牛を肥育する生産者（24経営体）を対象に希少系統種雄牛産子肥育素牛の導入（181頭）に係る奨励金交付業務を行った。

(3) 馬事・畜産普及啓発の推進体制の強化を図る事業

1) 地方競馬支援対策事業

馬事・畜産普及啓発として、佐賀競馬への冠レースの支援（年4回）を行った。

7.和牛肉等販売促進緊急対策事業（学校給食提供推進事業）

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴うインバウンド需要の減少などにより在庫が増加した大分県産食肉の消費拡大を図るとともに、生産・供給体制を維持した。

〔対象地域：豊後大野市 対象畜産物：豊のしゃも〕

区分	予算額（円）	決算額（円）
大分県 補助金	273,958	273,958

8. 高病原性鳥インフルエンザ緊急対策事業（鶏卵価値減少補てん等対策事業）

令和2年12月10日に佐伯市で発生した高病原性鳥インフルエンザにより、家畜伝染病予防法に基づき設定された移動制限区域に入った養鶏生産者の特殊卵である種卵の出荷が停止したため、本事業により鶏卵価値の減少を補てんした。

区分	予算額（円）	決算額（円）
大分県 補助金	2,200,000	2,136,892

9. 畜産コンサルタント委託事業

肉用牛経営及び酪農経営に対して、経営診断による経営改善指導を行い、畜産経営の安定を図った。

区 分	予算額（円）	決算額（円）
大分県 委託費	2,122,000	2,643,000

(1) 畜産経営技術総合支援指導

経営管理や生産技術の分析を行い、改善項目について関係機関と連携をとり改善指導を実施した。

1) 経営改善指導

経営改善の必要な肉用牛経営、酪農経営を対象に経営面・技術面からの経営診断を実施し助言指導を行った。

2) 経営管理指導

肉用牛経営、酪農経営を対象に経営診断を行った。また、酪農経営を対象にした酪農検討会に参画し助言指導を行った。

3) 生産技術指導

肉用牛経営に生産技術、経営計画の支援指導を行った。

(2) 分析結果報告書の作成

経営診断分析結果を取りまとめて報告書を作成した。

《対象経営戸数》

(単位：戸)

	肉用牛	酪農	合計
経営改善指導	5	3	8
経営管理指導	14	3	17
生産技術指導	1	0	1
合 計	20	6	26

10. 肉用牛新規参入促進特別対策事業（畜産インターンシップ対策）

本県肉用牛経営の新規参入促進を図るため、国及び県が主催する就農フェア等においての新規参入者の募集、県内外からの希望者への肉用牛定休型ヘルパー業務の体験、県内新規就農希望者を対象とした先進農家（県内8戸）での研修及び就農に向けた経営計画作成等の支援を実施した。

区 分	予算額（円）	決算額（円）
大分県 委託費	3,158,760	2,652,700

1.1. 貸付事業指導等事業

畜産近代化リース協会の機械施設借受者 16 名（肉用牛経営 2 戸、酪農経営 12 戸）に対して、機械施設 23 台の保管状況の確認と管理状況の調査並びに適正な利用について指導を行った。

また、県内各農協に本事業の説明をするとともに、新規利用推進を図った。

区 分	予算額（円）	決算額（円）
畜産近代化リース協会 委託費	242,000	181,703

1.2. 畜産関係団体調整機能強化事業（関係団体調整機能強化事業）

畜産に携わる男性・女性の畜産ネットワーク組織会員の個々のスキルアップ及び交流を図るための研修会を開催した。また、生産者・生産者組織等からの各種相談対応に応じるため、畜産コンサルタント団員の派遣及び研修会受講による職員のスキルアップを行った。

区 分	予算額（円）	決算額（円）
中央畜産会 委託費	1,190,000	1,189,339

1.3. 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業

(1) 全国推進事業

1) 全国実態調査業務（畜産クラスター全国推進事業）

畜産クラスターに係る取り組みを全国で推進するために必要な経営情報を収集するため、県内の先進的な肉用牛経営 8 戸、酪農経営 3 戸を対象に経営調査を行った。

区 分	予算額（円）	決算額（円）
中央畜産会 委託費	880,000	880,000

2) 畜産クラスター改善効果調査業務（畜産クラスター推進事業（改善効果））

畜産クラスター事業を活用し機械導入した肉用牛経営 1 戸を対象に導入前後の経営調査を行い、畜産クラスター事業活用の改善効果を検証した。

区 分	予算額（円）	決算額（円）
中央畜産会 委託費	150,000	150,000

(2) 機械導入事業

地域を支える畜産農家の支援のため、各畜産クラスター協議会が策定したクラスター計画に基づき収益性の向上を図るために機械導入事業を推進し、窓口団体として事業推進業務を実施した。

区 分	予算額（円）	決算額（円）
中央畜産会 委託費	2,075,000	2,025,830

	要望調査 (配分予定数)			参加申請		
	協議会数	取組主体数	機械台数	協議会数	取組主体数	機械台数
令和2年度	8	24件	41台	5	20件	38台

実施事項	回数	人数	内 容
全国事業推進会議	無し		新型コロナウイルス感染拡大により中止
事業説明会	無し		6/4付けで事業説明資料を各クラスター協議会、行政、各関係団体に送付
機械導入状況調査に係る現地確認	2日	2協議会 8取組主体	導入された機械装置(15台)の取組主体、リース事業者による検収作業を補完するための現地確認作業

(3)生産基盤拡大加速化事業（肉用牛）

輸出の拡大に向けて和牛の増産を推進するため、各畜産クラスター協議会の構成員が取り組む繁殖牛の増頭を支援した。(17.5万円/頭または24.6万円/頭)

区 分	予算額 (円)	決算額 (円)
全国肉用牛振興基金協会 委託費	1,857,000	1,801,522

1.4. 公庫資金活用推進事業

(1) 地域連携支援事業

(株)日本政策金融公庫の調査委託事業として、11月・1月の子牛市場(玖珠・豊肥)にてPR・資金相談コーナーを設置し広報・相談活動を行った。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い生産者組織研修会での活動は中止した。

区 分	予算額 (円)	決算額 (円)
日本政策金融公庫 委託費	50,000	47,400

1.5. 畜産・酪農生産力強化対策事業（家畜生産性向上対策事業）

酪農経営6戸、肉用牛経営4戸(繁殖2戸、肥育2戸)を対象に家畜生産性に係るデータ収集と、生産性向上のためのデータ分析を行い、分析結果をもとに技術指導を行った。

区 分	予算額 (円)	決算額 (円)
中央畜産会 委託費	890,000	820,321

16. 酪農労働省力化推進施設等緊急整備対策事業（酪農労働省力化対策事業）

酪農家における労働負担軽減・省力化及び飼養管理技術の高度化に資する機械装置の導入並びに当該機械装置と一体的な施設整備を支援するため、県酪農協並びに酪農家に対し事業の普及推進を行った。本年度の事業対象は無かった。

区 分	予算額（円）	決算額（円）
中央畜産会 委託費	246,000	225,274

17. 畜産経営体生産性向上対策事業（ICT等機械装置等導入事業）

酪農・肉用牛経営の生産基盤強化に資するため、酪農・肉用牛経営におけるICT等の新技術を活用した省力化機器の導入を支援することにより、過重となっている労働時間の削減を加速化し、計画的な生産性向上の支援を行った。本年度は年度途中で導入を取りやめた経営体が多くなった。

区 分	予算額（円）	決算額（円）
中央畜産会 委託費	488,000	515,607

協議会名	要望調査		参加申請	
	取組主体数	要望件数	取組主体数	申請件数
大分県酪農酪産応援会議	4	4	3	3
竹田市畜産 ICT 協議会	6	6	1	1
合 計	10	10	4	4

18. 畜産共進会及び畜産フェスタ開催事業

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、大分県農林水産祭・第81回大分県畜産共進会に係る肉用牛・乳用牛の部は中止となり、10月5日、豊後大野市での肉牛の部（50頭）のみの開催となった。また、台風の影響により畜産フェスタは開催中止となったが、一般消費者を対象に畜産に関する理解醸成、県産畜産物の消費拡大を推進するために、生産者・県・関係機関と連携し取り組んだ。

19. 養豚協会、養鶏協会等の活動支援（団体事務委託）

経営支援課内に団体支援室を設け各団体の活動支援を行った。

区 分	予算額（円）	決算額（円）
団体事務委託収入	1,137,000	1,137,283

20. 種豚登録業務

大分県養豚協会より業務委託を受け、日本養豚協会の規程に基づき種豚の改良増殖を推進するとともに、養豚経営の生産基盤強化を図るために登録業務を行った。

区 分	予算額（円）	決算額（円）
登記・登録料	242,000	146,850

主 な 種 別	実施予定頭数	実績頭数
黒豚生産農場認定	1 施設	1 施設
子 豚 登 記	80 頭	45 頭
種 豚 登 録	25 頭	10 頭

2 1 . 情報活動事業

中央並びに県内における畜産に関する資料を収集し、関係者に対し情報提供を行うとともに、中央畜産会が発刊する畜産コンサルタント誌・経営情報など参考資料等の斡旋を積極的に行った。

また、ホームページで畜産関係者、消費者に向け情報提供を行った。

(価格安定課)

1. 肉用子牛生産者補給金制度 (業務対象年間：令和2年度～令和6年度)

新型コロナウイルス感染症の影響により枝肉価格の低下に伴い、令和2年1月～令和2年3月(令和元年第4四半期)において、その他の肉専用種で生産者補給金の発動はあったが、令和2年4月～令和2年12月の間は、肉用子牛平均価格は回復し全ての品種において生産者補給金の発動はなかった。

<制度の仕組み>

肉用子牛の平均価格が、四半期毎に農林水産大臣が告示する肉用子牛の平均売買価格が保証基準価格を下回った場合に、本制度契約生産者が販売、又は自家保留した肉用子牛に対し生産者補給金を交付し、肉用子牛生産の安定等を図る。

(1) 保証基準価格と合理化目標価格 (単位：円)

品種	保証基準価格	合理化目標価格	備考
黒毛和種	541,000	429,000	
褐毛和種	498,000	395,000	
黒毛和種及び褐毛和種以外の肉専用種の品種	320,000	253,000	日本短角種等
乳用種の品種	164,000	110,000	
肉専用種と乳用種の交雑の品種	274,000	216,000	

(2) 生産者補給金交付契約締結状況 (単位：戸)

契約区分	契約者数					備考
	28年度	29年度	30年度	1年度	2年度	
個人	1,215	1,217	1,220	1,221	965	
農協	-	-	-	-	-	
農協連	-	-	-	-	-	
農事組合法人	3	3	3	3	3	
株式会社	6	7	9	13	21	
有限会社	12	12	12	13	14	
民法法人	-	-	-	-	-	
合計	1,236	1,239	1,244	1,250	1,003	

(3) 事務委託契約締結状況

事務委託先	事務委託先数					備考
	28年度	29年度	30年度	1年度	2年度	
J A 農協	5	5	5	5	5	
専門農協	2	2	2	2	2	県酪、熊本
農協連	1	1	1	1	1	全農大分県本部
その他	1	1	1	1	1	配合飼料基金
合計	9	9	9	9	9	

(4) 契約肉用子牛個体登録頭数の内訳 (単位：頭)

品種	契約者数					備考
	1月1日～ 3月31日	4月1日～ 6月30日	7月1日～ 9月30日	10月1日～ 12月31日	1月～12月 合計	
黒毛和種	2,932	2,617	2,844	2,827	11,220	
褐毛和種	6	3	0	2	11	
乳用種の品種	823	543	460	159	1,985	
肉専用種と乳用種 の交雑の品種	383	381	378	302	1,444	
合計	4,144	3,544	3,682	3,290	14,660	

(5) 平均売買価格 (単位：円)

期間	黒毛和種	褐毛和種	その他の 肉専用種	乳用種	交雑種
令和2年1月1日～3月31日	718,900	583,500	243,900	249,100	425,400
令和2年4月1日～6月30日	620,700	557,500	-	238,200	340,500
令和2年7月1日～9月30日	654,800	567,400	-	241,000	332,000
令和2年10月1日～12月31日	740,100	690,300	-	256,400	369,700

*その他の肉専用種は令和2年度より算定期間が1年となった。

(6) 契約肉用子牛1頭当たりの負担金（生産者積立金の額） (単位：円)

品種	生産者積立金		負担区分		
			機構(1/2)	県(1/4)	生産者(1/4)
黒毛和種	1月～3月	1,200	600	300	300
	4月～12月	1,600	800	400	400
褐毛和種	1月～3月	4,600	2,300	1,150	1,150
	4月～12月	6,000	3,000	1,500	1,500
黒毛和種及び褐毛和種 以外の肉専用種の品種	1月～3月	12,400	6,200	3,100	3,100
	4月～12月	18,800	9,400	4,700	4,700
乳用種の品種	1月～3月	6,400	3,200	1,600	1,600
	4月～12月	6,800	3,400	1,700	1,700
肉専用種と乳用種 の交雑の品種	1月～3月	2,400	1,200	600	600
	4月～12月	3,200	1,600	800	800

(7) 生産者積立金造成内訳

(単位：頭、円)

品種	区分	契約 頭数	積立 単価	積立所要額	負担区分		
					機構(1/2)	県(1/4)	生産者 (1/4)
黒毛和種	継続	2,779	1,200	3,334,800	1,667,400	833,700	833,700
		7,932	1,600	12,691,200	6,345,600	3,172,800	3,172,800
	新規	153	1,200	183,600	91,800	45,900	45,900
		356	1,600	569,600	284,800	142,400	142,400
	計	11,220	-	16,779,200	8,389,600	4,194,800	4,194,800
褐毛和種	継続	6	4,600	27,600	13,800	6,900	6,900
		1	6,000	6,000	3,000	1,500	1,500
	新規	0	4,600	0	0	0	0
		4	6,000	24,000	12,000	6,000	6,000
	計	11	-	57,600	28,800	14,400	14,400
乳用種の品種	継続	0	6,400	0	0	0	0
		0	6,800	0	0	0	0
	新規	823	6,400	5,267,200	2,633,600	1,316,800	1,316,800
		1,162	6,800	7,901,600	3,950,800	1,975,400	1,975,400
	計	1,985	-	13,168,800	6,584,400	3,292,200	3,292,200
肉専用種と乳用種の交雑の品種	継続	368	2,400	883,200	441,600	220,800	220,800
		1,029	3,200	3,292,800	1,646,400	823,200	823,200
	新規	15	2,400	36,000	18,000	9,000	9,000
		32	3,200	102,400	51,200	25,600	25,600
	計	1,444	-	4,314,400	2,157,200	1,078,600	1,078,600
計	継続	3,153	-	4,245,600	2,122,800	1,061,400	1,061,400
		8,962	-	15,990,000	7,995,000	3,997,500	3,997,500
	新規	991	-	5,486,800	2,743,400	1,371,700	1,371,700
		1,554	-	8,597,600	4,298,800	2,149,400	2,149,400
	計	14,660	-	34,320,000	17,160,000	8,580,000	8,580,000

(8) 生産者積立金及び生産者積立準備金造成状況 (令和3年3月31日現在)

(単位:円)

区分		保証基準価格の品種区分				計		
		黒毛和種	褐毛和種	乳用種	交雑種			
I 期 首 残 高	(1) 生産者積立金		0	0	0	0		
	(2) 生産者積立準備金		342,718,412	0	0	0	342,718,412	
	内 訳	(3) 生産者の負担金充当分		97,294,818	-	-	-	97,294,818
		(4) 県の生産者積立助成金充当分		160,433,591	-	-	-	160,433,591
		(5) 機構の生産者積立助成金充当分		84,990,003	-	-	-	84,990,003
II 生 産 者 積 立 金 積 立 実 績	(6) 生産者積立金純増加額 (9)+(12)+(15)+(18)		8,577,900	34,800	9,876,600	2,191,800	20,681,100	
	(7) 生産者積立準備金からの繰入額 (10)+(13)+(16)		8,201,300	22,800	3,292,200	2,122,600	13,638,900	
	(8) 計		16,779,200	57,600	13,168,800	4,314,400	34,320,000	
	内 訳	生 産 者	(9) 負担金	188,300	6,000	3,292,200	34,600	3,521,100
			(10) 生産者積立準備金(3)からの繰入	4,006,500	8,400	0	1,044,000	5,058,900
			(11) 小計	4,194,800	14,400	3,292,200	1,078,600	8,580,000
	内 訳	県	(12) 生産者積立助成金	0	0	0	0	0
			(13) 生産者積立助成金(4)からの繰入	4,194,800	14,400	3,292,200	1,078,600	8,580,000
			(14) 小計	4,194,800	14,400	3,292,200	1,078,600	8,580,000
	内 訳	機 構	(15) 生産者積立助成金	8,389,600	28,800	6,584,400	2,157,200	17,160,000
			(16) 生産者積立助成金(5)からの繰入	0	0	0	0	0
			(17) 小計	8,389,600	28,800	6,584,400	2,157,200	17,160,000
	内 訳	そ の 他	(18) 生産者積立金とすることを指定して寄付又は補助された財産	0	0	0	0	0
III の 資 金 か 繰 ら 入 の 状 況 等	(19) 特別の積立金から生産者積立金への繰入金額		0	0	0	0	0	
	(20) 償還円滑化積立金から生産者積立金への繰入金額		0	0	0	0	0	
	(21) 生産者補給金に充てるための全国協会等からの借入金額		0	0	0	0	0	
	(22) 生産者積立金に係る運用果実		111	0	127	26	264	
	(23) 生産者補給金交付額 (21)を含む		0	0	0	0	0	
	(24) 生産者積立金から借入金返済額		0	0	0	0	0	
	(25) 生産者分生産者積立準備金に係る運用果実		4,913	0	0	0	4,913	
	(26) 県分生産者積立準備金に係る運用果実		11,259	0	0	0	11,259	
	(27) 機構分生産者積立準備金返還金		84,990,003	-	-	-	84,990,003	
(28) 生産者分生産者積立準備金返還金		30,483,641	-	-	-	30,483,641		
(29) 償還円滑化積立金から生産者積立準備金への繰入額		0	0	0	0	0		
IV 期 末 残 高	(30) 生産者積立金 (1)+(8)+(19)+(20)+(21)+(22)-(23)-(24)		16,779,311	57,600	13,168,927	4,314,426	34,320,264	
	(31) 生産者積立準備金 (32)+(33)+(34)		213,622,040	0	0	0	213,622,040	
	内 訳	(32) 生産者の負担金充当分 ※計の欄 (3)-(10)+(25)-(28)		61,757,190	-	-	-	61,757,190
		(33) 県の生産者積立助成金充当分 ※計の欄 (4)-(13)+(26)		151,864,850	-	-	-	151,864,850
(34) 機構の生産者積立助成金充当分 ※計の欄 (5)-(16)-(27)		0	-	-	-	0		

2. 肉用牛肥育経営安定交付金制度（業務対象年間：平成30年12月30日～令和3年度）

本制度の肥育牛交付金交付実績は、13,064頭に対して1,330,726,443円であった。肉専用種は6,631頭に対して865,708,930円、交雑種については、3,789頭に対して373,136,291円、乳用種については、2,644頭に対して91,881,222円の交付を行った。

また、新型コロナウイルス感染症に係る畜産支援対策として、4月生産者負担金請求分より、生産者負担金納付猶予を行った。

(1) 交付基準

肉用牛肥育経営に及ぼす影響を緩和することを目的に、生産者と県からの拠出金（交付金の額の1/4に相当する額）と農畜産業振興機構からの交付金（交付金の額の3/4に相当する額）を併せて標準的販売価格と標準的生産費との差額の9割を交付する。

(2) 1頭当たり生産者負担金

(単位：円)

区分	1頭当たりの生産者負担金	うち		備考
		生産者	大分県	
肉専用種	55,000	54,250	750	
交雑種	20,000	19,170	830	
乳用種	19,000	18,470	530	

(3) 積立頭数の内訳

(単位：頭)

区分	早出し (3月販売・ 4月請求分)	令和2年度				計
		4月1日 ～6月30日	7月1日 ～9月30日	10月1日 ～12月31日	1月1日 ～3月31日	
肉専用種	3	1,896	2,093	1,743	1,819	7,554
交雑種	15	981	1,083	844	793	3,716
乳用種	5	696	803	357	656	2,517
計	23	3,573	3,979	2,944	3,268	13,787

※早出し3月販売分は、前年度の生産者負担金単価で基金造成を行った。

※前年度の品種毎の生産者負担金単価は肉専用種：27,000円、交雑種：17,000円、乳用種：19,000円。

(4) 肥育安定基金の造成状況

(単位：円)

区 分				肉専用種	交雑種	乳用種	合計	
期 首 残 高 ①				186,342,548	89,353,632	36,003,366	311,699,546	
増 加	積 立 金	造 成 実 績	大分県	補助金②	1,800	9,960	2,120	13,880
			準備金③	450	2,490	530	3,470	
		生産者④	78,750	242,550	92,350	413,650		
		計⑤=(②+③+④)	81,000	255,000	95,000	431,000		
	受取肥育牛交付金(機構3/4分)⑥	700,400,219	327,424,992	81,456,360	1,109,281,571			
	運 用 益 ⑦	10,642	3,945	1,692	16,279			
	小 計 ⑧=(⑤+⑥+⑦)	700,491,861	327,683,937	81,553,052	1,109,728,850			
合 計 ⑨=(①+⑧)	886,834,409	417,037,569	117,556,418	1,421,428,396				
減 少	肥育牛交付金(機構3/4分)⑩			700,400,219	327,424,992	81,456,360	1,109,281,571	
	肥育牛交付金(基金1/4分)⑪			165,308,711	45,711,299	10,424,862	221,444,872	
	交付金合計⑫=(⑩+⑪)			865,708,930	373,136,291	91,881,222	1,330,726,443	
期 末 残 高 (⑨-⑫)				21,125,479	43,901,278	25,675,196	90,701,953	

(5) 交付金単価算定結果

(単位：円)

区 分		令和2年					
		1月	2月	3月	4月	5月	6月
肉専用種	標準的販売価格(A)	1,095,950	1,034,696	1,016,351	950,809	972,007	980,905
	標準的生産費(B)	1,203,923	1,204,173	1,220,964	1,205,402	1,205,839	1,206,112
	差額(C) = (A) - (B)	△ 107,973	△ 169,477	△ 204,613	△ 254,593	△ 233,832	△ 225,207
	交付金単価 = (C) × 0.9	4,000.0	152,529.3	184,151.7	229,133.7	210,448.8	202,686.3
交雑種	標準的販売価格(A)	764,724	735,446	648,172	603,550	612,557	591,123
	標準的生産費(B)	759,944	762,248	777,856	768,139	775,024	802,694
	差額(C) = (A) - (B)	4,780	△ 26,802	△ 129,684	△ 164,589	△ 162,467	△ 211,571
	交付金単価 = (C) × 0.9	-	24,121.8	116,715.6	148,130.1	146,220.3	190,413.9
乳用種	標準的販売価格(A)	453,968	453,189	449,844	448,165	454,016	452,204
	標準的生産費(B)	506,567	496,877	510,469	506,104	506,155	505,625
	差額(C) = (A) - (B)	△ 52,599	△ 43,688	△ 60,625	△ 57,939	△ 52,139	△ 53,421
	交付金単価 = (C) × 0.9	4,000.0	39,319.2	54,562.5	52,145.1	46,925.1	48,078.9

区 分		令和2年						令和3年
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
肉専用種	標準的販売価格(A)	1,043,771	1,051,796	1,059,371	1,168,956	1,259,673	1,296,237	1,250,766
	標準的生産費(B)	1,245,707	1,245,865	1,245,449	1,267,309	1,266,905	1,266,735	1,232,267
	差額(C) = (A) - (B)	△ 201,936	△ 194,069	△ 186,078	△ 98,353	△ 7,232	29,502	18,499
	交付金単価 = (C) × 0.9 (生産者積立金払底後交付金単価)	181,742.4	174,662.1 (130,996.575)	167,470.2 (125,602.650)	88,517.7 (66,388.275)	6,508.8 (4,881.600)	-	-
交雑種	標準的販売価格(A)	617,687	656,939	641,221	672,479	737,203	786,997	760,481
	標準的生産費(B)	818,118	827,024	823,326	818,555	825,387	819,358	786,487
	差額(C) = (A) - (B)	△ 200,431	△ 170,085	△ 182,105	△ 146,076	△ 88,184	△ 32,361	△ 26,006
	交付金単価 = (C) × 0.9	180,387.9	153,076.5	163,894.5	131,468.4	79,365.6	29,124.9	19,405.4
乳用種	標準的販売価格(A)	450,921	449,173	447,289	445,862	448,127	442,419	442,341
	標準的生産費(B)	494,289	506,525	490,852	488,050	490,510	485,521	491,184
	差額(C) = (A) - (B)	△ 43,368	△ 57,352	△ 43,563	△ 42,188	△ 42,383	△ 43,102	△ 48,843
	交付金単価 = (C) × 0.9	39,031.2	51,616.8	39,206.7	37,969.2	38,144.7	38,791.8	39,958.7

※ 肉専用種については、1月、2月は地域算定・3月以降はブロック算定とし、交雑種、乳用種については全国算定により算出している。

※ 交付金単価について、R2.1月分は精算払単価、R2.2月～R2.12月分は確定単価、R3.1月分は概算払単価。

※ 肉専用種の交付金単価については、8月分より生産者積立金が払底したため国庫分(3/4)のみとなった。

(6) 肥育牛交付金交付実績総括表

区分	品種区分		交付対象者数 (人)	交付対象頭 数(頭) ①	交付金額	
					②単価 (円/頭)	③交付額 (①×②) (円)
令和2年 1月期 (精算金額)	肉専用種	通常	—	440	4,000.0	1,760,000
	交雑種	通常	—	0	0.0	0
	乳用種	通常	—	166	4,000.0	664,000
	計		33	606	—	2,424,000
令和2年 2月期 (確定金額)	肉専用種	通常	—	541	152,529.3	82,518,336
	交雑種	通常	—	292	24,121.8	7,043,562
	乳用種	通常	—	180	39,319.2	7,077,453
	計		44	1,013	—	96,639,351
令和2年 3月期 (確定金額)	肉専用種	通常	—	540	184,151.7	99,441,906
	交雑種	通常	—	260	116,715.6	30,346,052
	乳用種	通常	—	216	54,562.5	11,785,498
	計		40	1,016	—	141,573,456
令和2年 4月期 (確定金額)	肉専用種	通常	—	647	229,133.7	148,249,487
		納付猶予	—	5		859,247
	交雑種	通常	—	252	148,130.1	37,328,781
		納付猶予	—	69		7,665,731
	乳用種	通常	—	143	52,145.1	7,456,748
		納付猶予	—	30		1,173,262
計		49	1,146	—	202,733,256	
令和2年 5月期 (確定金額)	肉専用種	通常	—	503	210,448.8	105,855,739
		納付猶予	—	16		2,525,377
	交雑種	通常	—	201	146,220.3	29,390,277
		納付猶予	—	79		8,663,550
	乳用種	通常	—	136	46,925.1	6,381,813
		納付猶予	—	63		2,217,208
計		41	998	—	155,033,964	
令和2年 6月期 (確定金額)	肉専用種	通常	—	575	202,686.3	116,544,614
		納付猶予	—	32		4,864,461
	交雑種	通常	—	156	48,078.9	29,704,565
		納付猶予	—	159		22,706,851
	乳用種	通常	—	105	190,413.9	5,048,285
		納付猶予	—	71		2,560,196
計		43	1,098	—	181,428,972	
令和2年 7月期 (確定金額)	肉専用種	通常	—	588	181,742.4	106,864,525
		納付猶予	—	96		13,085,437
	交雑種	通常	—	128	180,387.9	23,089,650
		納付猶予	—	240		32,469,815
	乳用種	通常	—	65	39,031.2	2,537,027
		納付猶予	—	153		4,478,827
計		48	1,270	—	182,525,281	
令和2年 8月期 (確定金額)	肉専用種	通常	—	0	170,662.1 (130,996.575)	0
		納付猶予 払底	—	515		67,463,216
	交雑種	通常	—	76	153,076.5	11,633,813
		納付猶予	—	235		26,979,727
	乳用種	通常	—	7	51,616.8	361,317
		納付猶予	—	205		7,936,079
計		47	1,038	—	114,374,152	

区分	品種区分		交付対象者数 (人)	交付対象頭 数(頭) ①	交付金額	
					②単価 (円/頭)	③交付額 (①×②) (円)
令和2年 9月期 (確定金額)	肉専用種	通常	—	0	167,470.2 (125,602.65)	0
		納付猶予 払底	—	552		69,332,641
	交雑種	通常	—	41	163,894.5	6,719,675
		納付猶予	—	269		33,065,710
	乳用種	通常	—	6	39,206.7	235,240
		納付猶予	—	210		6,175,050
計			49	1,078	—	115,528,316
令和2年 10月期 (確定金額)	肉専用種	通常	—	0	88,517.7 (66,388.275)	0
		納付猶予 払底	—	628		41,691,806
	交雑種	通常	—	39	131,468.4	5,127,266
		納付猶予	—	283		27,904,159
	乳用種	通常	—	3	37,969.2	113,908
		納付猶予	—	255		7,261,605
計			48	1,208	—	82,098,744
令和2年 11月期 (確定金額)	肉専用種	通常	—	0	6,508.8 (4,881.6)	0
		納付猶予 払底	—	953		4,652,138
	交雑種	通常	—	26	79,365.6	2,063,505
		納付猶予	—	316		18,809,639
	乳用種	通常	—	1	38,144.7	38,145
		納付猶予	—	222		6,351,086
計			48	1,518	—	31,914,513
令和2年 12月期 (確定金額)	肉専用種	通常	—	0	0.0	0
		納付猶予 払底	—	0		0
	交雑種	通常	—	7	29,124.9	203,874
		納付猶予	—	350		7,645,275
	乳用種	通常	—	0	38,791.8	0
		納付猶予	—	193		5,615,108
計			18	550	—	13,464,257
令和3年 1月期 (概算金額)	肉専用種	通常	—	0	0.0	0
		納付猶予 払底	—	0		0
	交雑種	通常	—	10	23,405.4	194,054
		納付猶予	—	301		4,380,760
	乳用種	通常	—	0	43,958.7	0
		納付猶予	—	214		6,413,367
計			18	525	—	10,988,181
合計	肉専用種	通常	—	3,834	—	661,234,607
		納付猶予	—	2,797	—	204,474,323
	交雑種	通常	—	1,488	—	182,845,074
		納付猶予	—	2,301	—	190,291,217
	乳用種	通常	—	1,028	—	41,699,434
		納付猶予	—	1,616	—	50,181,788
計			526	13,064	—	1,330,726,443

※合計の交付対象者数は延べ人数である。

※8月分より肉専用種の交付金単価については、生産者積立金が払底したため国庫分(3/4)のみとなった

※交付金額の②単価の()は生産者積立金払底後の交付金単価。

3 . 大分県肉豚価格安定対策事業（業務対象年間：平成30年12月30日～令和2年度）

独立行政法人農畜産業振興機構が実施する肉豚経営安定交付金制度に参加する県内の肉豚生産者が積み立てする生産者負担金の一部を補助する事業を実施した。

【県費補助金は、畜産協会より四半期毎に農畜産業振興機構に積立てを行った。】

(1) 生産者負担金単価 (単位：円)

区 分	生産者負担金単価	内 容	
		内 県補助金	内 生産者負担分
第1四半期～第4四半期	400	60	340

(2) 事業対象頭数 220,345頭

(3) 肉豚補てん準備金造成状況 (単位：円)

区 分		金 額	備 考
期 首 残 高		106,452,406	前期繰越金
増加	運用益	9,229	
	小 計	9,229	
減少	養豚基金負担金支出	6,610,350	
	小 計	6,610,350	
期 末 残 高		99,851,285	

(4) 肉豚補てん積立金造成状況 (単位：円)

区 分		金 額	備 考
期 首 残 高		0	
増加	県生産者積立金補助金収入	6,610,350	
	小 計	6,610,350	
減少	養豚基金負担金支出	6,610,350	
	小 計	6,610,350	
期 末 残 高		0	

4. 肉用子牛生産者補給金制度運営体制整備強化事業

(1) 肉用子牛生産者補給金制度運営適正化事業

生産者補給金交付契約を締結した生産者の個体識別及び個体登録、保留確認、生産者に対する啓発指導及び業務の適正な実施等を図るため、全国統一電算事務処理システムによる報告並びに、家畜市場での取引情報を収集し機構へ報告した。

また、本制度の適正な実施を図るため事務委託先及び契約生産者に対して肉用子牛生産者補給金制度等に係る交付契約の内容、手続き等についての点検、調査、指導を行った。

区 分	予算額 (円)	決算額 (円)
農畜産業振興機構 補助金	14,795,400	14,865,000

(2) 指定協会運営体制支援事業

肉用子牛生産者補給金制度の円滑な実施を図るため運営体制の強化を図った。

区 分	予算額 (円)	決算額 (円)
農畜産業振興機構 補助金	6,790,000	6,790,000

5. 肉用牛肥育経営安定交付金制度業務委託事業

肉用牛肥育経営安定交付金制度における積立金管理者として、農畜産業振興機構の委託を受け、事業の円滑な実施を図るため、事務委託先並びに契約生産者に対する調査・指導を行うとともに、円滑な交付金の交付を行った。

区 分	予算額 (円)	決算額 (円)
農畜産業振興機構 委託費	7,517,000	7,484,491

6. 肉豚経営安定交付金制度に係る委託事業

農畜産業振興機構が直接方式で実施する肉豚経営安定交付金制度の円滑な実施を図るため、適切な事務処理等についての事業内容の周知や手続きに関する説明会の開催及び参加する生産者からの照会対応業務等を行った。

区 分	予算額 (円)	決算額 (円)
農畜産業振興機構 委託費	340,900	367,650

7. 優良肉用子牛生産推進緊急支援対策事業

新型コロナウイルス感染症の影響により、肉用子牛の販売価格が低下した場合でも経営改善を図る肉用子牛生産者が飼養する頭数を維持するために、全国平均価格が発動基準を下回った場合に奨励金の交付を行う計画であったが、令和2年5月～令和3年3月の発動はなかった。

区 分	予算額 (円)	決算額 (円)
農畜産業振興機構 補助金	16,505,000	777,922

8. 肉用子牛県内流通活性化緊急対策事業

新型コロナウイルス感染症の発生を受け、肉用牛価格が下落するなど、大きな影響が出ている。これらの影響を軽減し、県内肉用子牛流通の活性化及び和牛生産の維持を図るため、県内肥育生産者における県産子牛の導入を推進する取組に対し、県内家畜市場で黒毛和種の子牛を購入した場合、奨励金 1 頭当たり 20,000 円の交付を行った。

奨励金交付額並びに交付対象頭数

導入月	第 1 期 (6/3～8/31)	第 2 期 (9/1～11/30)	第 3 期 (12/1～2/28)	合計
交付対象頭数 (頭)	976	789	932	2,697
奨励金交付額 (円)	19,520,000	15,780,000	18,640,000	53,940,000

区 分	予算額 (円)	決算額 (円)
大分県 補助金	53,042,000	54,015,564

9. 肥育牛経営等緊急支援特別対策事業

新型コロナウイルス感染症拡大の影響対策として、所得や営業利益を令和 2 年度と比較して 3%改善することを目的に、経営体質の強化のため 5 つの取組を行う肉用牛生産者等に対して、肥育牛等が販売された場合に奨励金の交付を行った。

奨励金単価

前年比 取組数	枝肉価格の前年同月比		
	条件なし	30%下落	40%下落
2 つ	2 万円/頭	2 万円/頭	2 万円/頭
3 つ以上	2 万円/頭	4 万円/頭	5 万円/頭

奨励金交付頭数及び交付額※マルキン対象牛

販売月	奨励金交付対象頭数 (頭)	奨励金交付額 (円)
令和 2 年 4 月～12 月	10,378	207,560,000

奨励金交付頭数及び交付額※マルキン対象牛以外

販売月	奨励金交付対象頭数 (頭)	奨励金交付額 (円)
令和 2 年 4 月～9 月	447	8,940,000

区 分	予算額 (円)	決算額 (円)
中央畜産会 委託費	2,944,000	2,722,644

10. 業務実施事項

(1) 業務運営基金 (令和3年3月31日現在)

(単位：千円)

摘 要		会員数	子牛	肉豚	計
寄託金					
	大分県	1	100,000	-	100,000
	市町村	18	15,580	-	15,580
	農協	5	52,150	4,160	56,310
農協連	中央会	1	10	-	10
	県信連	1	7,660	2,000	9,660
	全農大分県本部	1	26,260	7,510	33,770
	全国共済連	1	3,830	1,500	5,330
	畜産公社	1	-	100	100
	配合飼料基金	1	100	510	610
	県酪農協	1	5,000	-	5,000
	ジェイエイ北九州くみあい飼料(株)	1	-	500	500
	計	32	210,590	16,280	226,870
補助金					
	全国肉用牛振興基金協会	-	12,000	-	12,000
	計	-	12,000	-	12,000

(2) 基本財産 (令和3年3月31日現在)

(単位：千円)

摘 要			子牛	肉豚	計
特別の積立金より繰入			200,000	-	200,000
合 計			200,000	-	200,000

(3) 長期預け金

(単位：千円)

区 分	前年度末現在	当 期		当年度末
		増加額	減少額	
全国肉用牛振興基金協会	6,600	0	0	6,600

(家畜衛生課)

1. 家畜生産農場衛生対策事業

ヨーネ病の防疫対策、牛伝染性リンパ腫の感染拡大防止対策、牛ウイルス性下痢 (BVD) 清浄化対策及び吸血昆虫媒介疾病の発生・流行防止対策を推進し、また、農場自らが飼養衛生管理の向上に取り組むための支援を行うことにより家畜の損耗防止を図った。

区 分	予算額 (円)	決算額 (円)
国庫補助金	5,748,000	5,139,514
事業収入 (BVD自己資金)	291,000	155,330

(1) ヨーネ病早期清浄化のための防疫対策

ヨーネ病自主検査

ヨーネ病細菌培養等検査 (糞便の細菌培養)

家畜保健衛生所へ検査依頼頭数 0 頭 (牛の輸入が停止したため)

(2) 牛伝染性リンパ腫の感染拡大防止対策

牛伝染性リンパ腫の感染拡大防止を図るため講習会を開催し、生産者を含め関係機関や団体等が一体となった感染予防対策を推進した。

講習会の開催

開催日：令和3年3月8日 (月)

演 題：「牛伝染性リンパ腫について」

講 師：大分家畜保健衛生所

病性鑑定部

主 任 林 拓己 氏

(3) BVD 清浄化対策

BVDの清浄化を図るためバルク乳等を用いた検査を実施した。また講習会を開催し、生産者を含め関係機関や団体等が一体となった感染予防対策の推進を行った。

BVD 自主検査 49 検体 (バルク)

P I 牛自主淘汰 0 頭

講習会の開催

開催日：令和3年3月8日 (月)

演 題：「牛ウイルス性下痢 (BVD) について」

講 師：大分家畜保健衛生所

病性鑑定部

副主幹 中出 圭祐 氏

(4) 農場飼養衛生管理強化対策

農場飼養衛生管理向上のための指導体制を確立し、生産者自らが飼養衛生管理の向上に取り組むための支援を行うことにより家畜の損耗防止を図った。

・ 検討会の開催 1 回

・ 指導農場 238 戸 (延べ戸数 299 戸)

(5) 疾病発生流行防止支援対策

吸血昆虫媒介疾病のワクチンを接種することで牛の疾病発生・流行防止を推進し、家畜の損耗防止を図った。

2. 牛疾病検査円滑化推進対策事業

死亡牛の円滑な収集、輸送、並びに適正な処理をすることにより、BSE検査の円滑な実施と良好な家畜衛生及び環境の維持を図った。

区 分	予算額 (円)	決算額 (円)
国庫補助金	5,565,000	4,689,502

(1) 死亡牛検査処理安定化対策

輸送費及び化製処理費に対する補助

[補助対象頭数及び助成金額]

	第1・四半期	第2・四半期	第3・四半期	第4・四半期	R2年度合計
96ヶ月齢以上 (頭)	65	68	96	53	282
助成金額 (円)	744,500	782,000	1,100,000	609,500	3,236,000

3. 獣医療提供体制整備推進総合対策事業

産業動物診療や家畜防疫体制を強化・維持するため県と連携し、本県での就業を希望する獣医系学生に対する修学資金の貸与を行った。

区 分	予算額 (円)	決算額 (円)
国庫補助金	13,650,000	13,558,259

本年度対象学生 : 13名 (国 1/2 大分県 1/2)

4. 大分県獣医師確保対策事業

産業動物診療や家畜防疫体制を強化・維持するため、本県での就業を希望する獣医系学生に対する修学資金の給付やインターンシップ研修を実施し、必要とする獣医師の安定確保に努めた。

区 分	予算額 (円)	決算額 (円)
大分県 補助金	15,484,000	15,484,062

本年度対象学生 : 13名 (国 1/2 大分県 1/2)
2名 (県 10/10)

合計 15名

インターンシップ研修を受けた学生 : 1名 (県単)

5. 家畜防疫互助基金支援事業

豚熱及び口蹄疫等の海外悪性伝染病が発生した場合、生産者が飼養する豚・牛の淘汰に伴う損失を生産者などが互助補償するための仕組みについて、関係団体等との連携により支援するとともに、事業内容等の周知徹底に努め、畜産経営の安定的発展に努めた。

区 分	予算額 (円)	決算額 (円)
農畜産業振興機構 補助金	2,045,000	1,918,014

(1) 家畜防疫互助等推進事業

推進会議の開催、生産者・関係団体等に対する事業の普及、指導、連絡調整等

(2) 家畜防疫互助事業

契約状況一覧

契約戸数 (戸)		家畜の種類	契約頭数 (頭)	積立金額 (円)	
乳 用 牛 ・ 肉 用 牛	1,090	・乳用牛 (24ヶ月齢以上)	8,724	2,050,140	
		・乳用牛 (24ヶ月齢未満)	4,029	382,755	
		・肉専用繁殖雌 (24ヶ月齢以上)	17,147	3,858,075	
		・肉専用繁殖雌 (24ヶ月齢未満) 及び肉専用肥育牛	22,646	2,491,060	
		・交雑種	7,140	749,700	
		・乳用種肥育牛	5,491	521,645	
		計	65,177	10,053,375	
豚	家 族 型	7	・繁殖用種豚 (雌)	548	65,760
			・ " (雄)	30	3,600
			・肥育豚	6,960	208,800
			小 計	7,538	278,160
	企 業 型	21	・繁殖用種豚 (雌)	12,595	1,574,375
・ " (雄)			360	45,000	
・肥育豚			111,946	3,918,110	
		小 計	124,901	5,537,485	
		計	132,439	5,815,645	
合		計		15,869,020	

(※基金は中央畜産会が一括積立)

豚追加納付分

契約戸数 (戸)		家畜の種類	契約頭数 (頭)	積立金額 (円)
家 族 型	6	・繁殖用種豚 (雌)	548	197,280
		・ " (雄)	30	10,800
		・肥育豚	6,860	617,400
		小 計	7,438	825,480
企 業 型	17	・繁殖用種豚 (雌)	11,070	4,151,250
		・ " (雄)	321	120,375
		・肥育豚	103,096	10,825,080
		小 計	114,487	15,096,705
		合 計	121,925	15,922,185

(※基金は中央畜産会が一括積立)

6. ASF侵入防止緊急支援事業

ASF (アフリカ豚熱) がアジア地域で急速に拡大しているため、国内への侵入防止及びまん延防止のため国が行っている対策に加え、県内養豚場に野生動物侵入防止用の柵を整備した。

区 分	予算額 (円)	決算額 (円)
農畜産業振興機構 補助金	91,020,000	91,020,044

事業実施養豚経営体 24戸（36農場） 総事業費 209,482,155円

※全国的な資材発注の集中に伴う資材搬入遅延により元年度内に防護柵の設置が完了しなかったため、令和2年度へ繰越となった。

7. 馬飼養衛生管理特別対策事業

馬の飼養衛生について馬飼養者及び関係団体を組織化し、計画的に事業を実施、浸透させることにより、馬飼養衛生管理体制の総合的な整備と馬産の振興に資するための指導を行った。

区 分	予算額（円）	決算額（円）
中央畜産会 助成金	500,000	494,056

(1) 地域馬飼養衛生管理体制整備委員会の開催

令和2年12月2日（水）

(2) 馬飼養衛生管理技術地方講習会の開催

令和2年12月2日（水）

演題：「馬の飼養衛生管理基準と感染症について」

講師：JRA 日本中央競馬会 馬事部防疫課 倉持 雄太 氏

(3) 地域馬獣医療実態調査

調査戸数 15戸（うち2戸はPC回答）

8. 馬伝染性疾病防疫推進対策事業

地域における自主防疫活動の強化を図るため、競走馬以外の馬に対する馬インフルエンザワクチン接種の推進及び馬飼養衛生状況等の知識の普及啓発等の取り組みを行った。

区 分	予算額（円）	決算額（円）
中央畜産会 助成金	644,000	597,839

(1) 馬ワクチン接種等地域推進対策検討会の開催

令和2年12月2日（水）

(2) 馬インフルエンザワクチン接種頭数 41頭

9. 自衛防疫強化総合対策事業

区 分	予算額（円）	決算額（円）
大分県 補助金	174,000	174,000

(1) 推進事業の開催

開催年月日	会議名	開催場所
R3.2.3	予防注射事業標準対価表検討会	全農おおいた
R3.2.3	牛病部会	全農おおいた
R3.3.10	家畜衛生専門委員会	大分県庁

(2) 調査資料の作成

対象農家	農場数
養豚農家	49 戸
養鶏農家	67 戸
計	116 戸

(3) 広報活動

- ・立ち入り禁止ステッカー 1,000 部
- ・家畜衛生入場者記録帳 1,000 部

10. 死亡牛適正処理促進事業

区 分	予算額 (円)	決算額 (円)
大分県 補助金	1,138,000	832,759
事業収入 (自己資金)	1,138,000	832,759

- (1) 施設運営費 . . . コンテナ維持管理電気料
 任意労災保険
 フォークリフト年次・月次検査手数料 } 1/2 補助

11. 野生獣衛生推進体制促進事業

野生獣による伝染病の伝播拡散を防止するため、中山間地域における野生獣の衛生実態調査を行い、家畜衛生関係者を中心とした畜産分野への情報発信体制を構築・整備した。

区 分	予算額 (円)	決算額 (円)
家畜衛生対策推進協議会助成金	4,343,000	4,230,690

(1) 地域衛生技術連絡協議会の開催 (年 3 回)

- 第 1 回 令和 2 年 7 月 17 日 (金)
- 第 2 回 令和 3 年 3 月 8 日 (月)
 - ・講習会 演題: 「大分県の哺乳類-2021 年度新規 RDB 種を考える-」
 - 講師: 応用生態技術研究所 所長 足立 高行 氏
- 第 3 回 令和 3 年 3 月 8 日 (月)

(2) 野生獣の衛生実態調査

- イノシシ 60 頭
(検査項目 SFTS、E 型肝炎、ADV、PRRS、CSF、豚流行性下痢、毒素産生大腸菌)
- シカ 24 頭
(検査項目 牛 PI-3、牛 RS、イバラ病、IBR、毒素産生大腸菌)

12. 牛せき柱適正管理等推進事業

化製業者と、牛せき柱以外分別供給契約を締結した上で、牛せき柱を適正に管理し、適正管理の確認や作業者に対する指導・監督等を行う責任者を設置するとともに、研修会を自ら実施した食肉事業者に対し交付される促進費の交付事務に関する手続きを行った。

区 分	予算額 (円)	決算額 (円)
畜産副産物協会 委託費	240,000	254,678

事業対象食肉業者 1社

13. 特定疾病予防接種推進事業

区 分	予算額 (円)	決算額 (円)
事業収入	86,483,000	85,610,998

国庫補助事業・協会単独事業実績

牛疾病

(単位:頭)

協議会名	牛五混	イバラキ	流行熱	流行熱・イバラキ	異常産三混	異常産四混	ヘモフィルス
県中央	943	943	0		1,058	0	1,003
県南	4,986	4,983	1,382	1,470	4,304	0	4,976
県西	2,947	2,953	0	0	931	5,463	2,958
県北	1,760	1,893	0	0	2,164	2,652	1,934
合 計	10,636	10,772	1,382	1,470	8,457	8,115	10,871

鶏疾病

(単位:千羽)

協議会名	ND	NDIB
	生	生
県中央(大分市)	80	0
県南地域(大野地区)	0	8
県西地区	0	0
県北	0	0
合 計	80	8

14. 種畜精液保管譲渡推進事業

大分県肉用牛振興の基本方針に基づき、豊後牛の生産基盤の確立及び豊後牛銘柄確立のため、地域の実情に応じ大分県肉用牛改良方針に沿った精液の保管譲渡を実施した。

区 分	予算額 (円)	決算額 (円)
事業収入	12,150,000	11,856,148
事務手数料収入	1,016,000	973,963

支 所	譲渡本数 (本)
大 分	2,534
豊後大野	1,965
玖 珠	1,586
宇 佐	1,584
合 計	7,669

15. 予防注射事故対策事業

該当なし

16. 自衛防疫普及啓発事業

自衛防疫を推進するため、家畜の疾病及び飼養衛生管理に関する研修会の開催や啓発資料の作成・配布を実施した。

- ・ 県南牛疾病対策協議会研修会協賛
- ・ 市場日程表への啓発資料掲載

17. 高能力雌牛保留確保促進事業（ゲノム育種価検査）

繁殖農家等がゲノム育種価評価の手法を活用し、能力が一定以上（県内雌子牛の概ね1／4以上）ある高能力雌牛を選抜保留するため、雌子牛のゲノム育種価検査を実施した。

区 分	予算額（円）	決算額（円）
検査事務手数料収入	1,600,000	1,700,000